



点字を自然と覚えられる 夢のカードゲーム

田中 麻祐子 (高校3年生：神奈川県)

ダイバーシティ化が進む現在、英語を話すことができるのは当たり前になりつつある。さらに、職場における男女平等にも関心が集まってきている。そんな中、障がい者への門戸を開くうえで、点字を扱うことができることも現代社会において一般的な能力になる可能性は十分に考えられる。しかし、点字をただ覚えようと思っても難しい。そこで私が提案するのがこのゲームである。

ゲームで使うカードには点字一字が書かれている。まずカードをシャッフルし、一人に決められた枚数ずつ配る。(配る枚数はお題によってプレイヤー同士で考えてよい)この時余ったカードは真ん中に置いておく。その後じゃんけんで順番を決め、自分のターンが来たら真ん中に置いてあるカードの山から一枚をひき、自分の手札からも一枚いらぬカードをひき、カードの山に置く。このゲームはお題(プレイヤー同士で決める)に沿った単語を、予め決められた手札の枚数で最も早く作れたら勝ちとなるゲームだ。例えばお題が野菜で、決められた枚数が4枚とすると、作ることができる単語として“こまつな”や“はくさい”などが挙げられる。プレイヤーは事前に配られる、点字とその点字が表す字とが書かれた表を参考に単語を作る。

このゲームをすることによって、ゲームとして楽しみながらも自然と点字を覚えることができる。やり方は非常に簡単であり、電子機器なども必要ないため、子供から大人まで、初心者でも十分楽しむことができるだろう。街中のあらゆるところにある点字だが、普段点字に意識的に触れる機会はありません。このゲームが一人でも多くの人の点字にふれる機会を作ることを期待する。つまり、このゲームにふれる人が増えることこそ、ダイバーシティへの一歩である。